

サクサク、ねっとりナガイモ作り！

栽培のポイント

●耕土を深く、排水性を良くする！

地中に長く伸びるため、やわらかくふかふかの土を好みます。バクヤーゼKを使って有機物を分解し、ふかふかの土を作りましょう。養分の吸収根は表層に分布するので、肥料は土壌の中に混ぜ込むのではなく表層(ウネ間)に施肥します。

●でんぷんづくりが得意なMリンPKは、イモを太らせる！

普通は長く細く伸びてしまうナガイモは、MリンPKを利用するとずんぐりとした太くて重量感のあるイモになります。

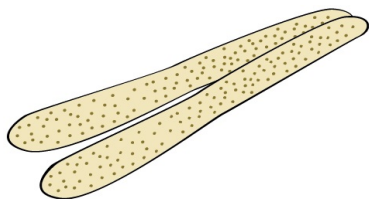


●MリンPKは、ナガイモのきめを細かくする！

きめの細かいイモ質はアク成分が少なく、すりおろした時に粘りが強く、すぐ黒く変色しません。短冊状に切った時もサクサク感に優れますので、料理を提供するお店に大好評です。

ナガイモの施肥提案 (1 a = 30 坪)

肥料名	元肥	追肥① 茎が1m程度の頃	追肥② 追肥①の約30日後	追肥③ 追肥②の約30日後
MリンPK	4 kg	4 kg	2 kg	2 kg
バクヤーゼK	4 5 kg			
NK化成	4 kg	3 kg	3 kg	



葉が繁茂すると 病気にかかりやすくなるので、リーフアップV3 (500 倍) の利用がお勧め

仕上げには、MリンPK とともに硫酸マグネシウムの効果も大きい

★ナガイモづくりは、種イモづくりから

種イモが良ければ、病気や異常気象に強く、規格が揃い、歩留まりが向上します。充実したイモをつくれば、種イモの質も上がります。

収穫後の土づくり (1 a = 30 坪)

各作の収穫後に 残渣とともに
 堆肥 500kg~1 t
 バクヤーゼK 3~5 袋
 Mイーシー 2kg
 米ヌカ 約3~5kg
 以上を全面散布して、耕起します
 その後、十分にカン水
 (バイオ根助の混用おすすめ)